

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医務費

事業名 地域医療を支える人づくり事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係 電話番号：058-272-1111(内3279)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,500 千円 (前年度予算額： 1,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
要求額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内の医療施設従事医師数は年々増加しているものの、全国平均を大きく下回っており、依然として医師が不足している状況である。また、全国的にも、特に産科医や小児科医等の不足感が大きく、この傾向は県内でも同様であり、当該診療科医師の増加・診療科偏在の解消が必要となっている。この状況を改善するためには、医師不足診療科当の実状を学んだ学生が将来、医学部に入学し、医師として県内で従事することに対する意識を醸成する必要がある。

人口10万人あたり医療施設従事医師数	全国平均	262.1人
〃	岐阜県	231.5人

(2) 事業内容

医療現場の体験等を通じて、医師に求められる高い倫理観や使命感を学ぶとともに、医師の職業の重要性や生命の尊さについて理解を深め、将来の職業選択の参考にしてもらい、将来、気概と目的意識を持って医学部を志す中高生の育成及び医師不足診療科の解消を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方
県単独事業

(4) 類似事業の有無
高校生を対象としたへき地医療研修会の開催【へき地医療従事者養成事業】

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	32	業務旅費
需用費	6	消耗品等
役員費	127	通信運搬費等
保険料	100	参加学生の傷害保険、損害賠償責任保険の加入費用
委託料	1,235	現場体験及び体験セミナー研修の委託
合計	1,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

岐阜県医師確保計画（第8期岐阜県保健医療計画別冊）

(2) 国・他県の状況

- ・高校生を対象とした医療現場体験事業（福島県）
- ・高校生医療体験セミナー（広島県）
- ・高校生の職場体験セミナー（群馬県）
- ・三重地域医療メディカルスクール（三重県）

(3) 後年度の財政負担

医師の人づくりに関する施策であることから、当面継続する。

(4) 事業主体及びその妥当性

当該事業は医師不足診療科（産婦人科や小児科等）に特化して、医師不足診療科の魅力を知らせてもらい、将来当該診療科の医師を目指してもらうことで、当該診療科医師の増加・診療科偏在の解消の取組として、県が積極的に実施する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

医師不足診療科当の実状を学んだ学生が将来、医学部に入学し、医師として県内で従事することに対する意識を醸成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①医療機関現場 体験等参加者数 (累計)		326人 (累計)	365人 (累計)	415人 (累計)	415人 (累計)	79.6%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 実施医療機関7病院 実施回数 産婦人科：1回、小児科：2回、麻酔科：3回、救急科：5回 参加人数42人（中学2年生：4人、高校1年生：38人） <p>令和2、3年度は事業を中止としたが、例年の事業参加者から、各医療機関の体験内容について満足するとともに医師及び体験した診療科への興味を持つようになったとの感想があり、学生が医師という職業に触れる機会を創出し、将来的に従事しようとするきっかけとなっていると言える。</p> <p>指標① 目標：250 実績：206 達成率：82.4%</p>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 実施医療機関9病院 実施回数 産婦人科：4回、小児科：5回、麻酔科：4回、救急科：5回 参加人数59人（中学2年生：12人、高校1年生：47人） <p>事業参加者に対してアンケート調査を行った結果、各医療機関の体験内容について満足するとともに医師及び体験した診療科への興味を持つようになったとの感想があった。このことから、本事業は学生が医師という職業に触れる機会を創出し、将来的に医学部に入学し、医師として従事しようとするきっかけになっている。</p> <p>指標① 目標：415 実績：265 達成率：63.9%</p>

令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実施医療機関13病院 ・実施回数 産婦人科：7回、小児科：6回、麻酔科：7回、救急科：7回 ・参加人数61人（中学2年生：17人、高校1年生：44人） <p>事業参加者に対してアンケート調査を行った結果、各医療機関の体験内容について満足するとともに医師及び体験した診療科への興味を持つようになったとの感想があった。このことから、本事業は学生が医師という職業に触れる機会を創出し、将来的に医学部に入学し、医師として従事しようとするきっかけになっている。</p>
	指標① 目標：415 実績：326 達成率：79.6%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	医師不足診療科の実情を学んだ生徒が将来、医学部に入学し、当該診療科医師として従事することに対する意識を醸成することにつながるため、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	累計326人（H30年度：83人、R1年度：81人、R4年度：42人、R5年度：59人、R6年度：61人）の学生が参加し、実際の医療機関を訪問して診察の見学や体験等を通じて、地域医療への興味を持たせることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	県内の中学校、高等学校に周知を依頼する等、多数の学生に対して募集を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 医師を目指す者を増やした後、実際に医学部に進学し、県内の対象診療科で勤務してもらうための施策についても検討が必要。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地域医療の確保という強い県民ニーズがあり、一定の成果を挙げるまで継続すべき事業である。
--